ESS事業推進インフラ整備

佐藤康夫* 服部真司*

中村慎二

要旨

情報通信技術とコンピュータ技術の飛躍的な発展により、 社会は新産業革命と言われるまでの大きな変化の中にある。 この変化の中で、情報技術(Information Technology: IT) を駆使したビジネススタイルが様々な分野で台頭している。

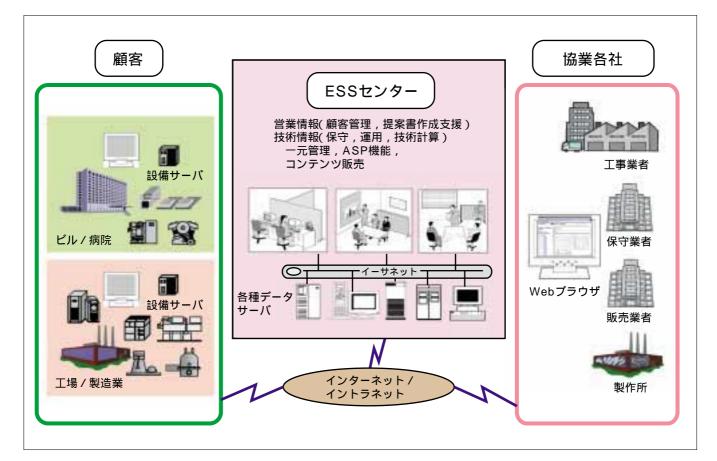
三菱電機の新しい業態であるEnergy Solution Service事業(ESS事業)においても,情報技術を適用したO&M(Operation & Maintenance)サービスを提供し,客側設備の保全・最適運用によるエネルギー削減,顧客満足度の向上を目的にESS事業推進インフラ整備を進めている。

このインフラ整備の目的は,ESS事業のサービス内容であるO&Mサービスだけでなく,ESS事業を円滑,効率的,かつ顧客の常連客化を実現するために受注前活動から受注

後の保全 / 運用管理, 更にはリニューアル受注といった設備更新サイクルをにらんだビジネススタイルの実現である。

この目的を実現するために,エネルギー供給側(Supply Side),エネルギー需要側(Demand Side)の設備機器各種情報監視を始め,この情報の分析・運用改善,保全対応といった本来のO&Mサービス整備と,顧客情報の協業各事業者との共有化,提案書作成支援,技術検討支援といった様々な機能をITインフラ上に構築している。また,将来的にはこのインフラ上で生成される様々なコンテンツを外部販売する新規コンテンツ事業創造も視野に入れている。

本稿では,このインフラ構築の背景,システム構成,各 種機能概要,及び新規事業構想について述べる。



ESS事業推進インフラが生み出すコンテンツ提供ビジネス

顧客設備全般 Supply Side / Demand Side)情報をITインフラを利用して情報センター(ESSセンター)に収集・分析・検討・加工し,各種コンテンツを協業各社及び顧客側に提供することで,新たなビジネスモデルを創出する。顧客設備の保全・最適運用といったO&Mサービスだけでなく,協業各社の生産性向上と最適運営を支援 / 補助するための各種情報提供を実現する。

*電力事業部 25(591)